

ユズエクボ症の発生要因と対策技術の開発

杉本達哉・谷本佑・山下翔人*・沖 友香**

Factors inducing postharvest disease 'the collapse symptom of the peel like dimple' of Yuzu (*Citrus junos* Sieb. ex Tanaka) and development of methods decreasing the disease

Tatsuya SUGIMOTO, Yuu TANIMOTO, Shouto YAMASHITA, and Tomoka OKI

要 約

炭疽病菌によって引き起こされるユズエクボ症の発生要因と対策技術について検討した。

発生要因の検討

1. 収穫時期の遅い果実、果実の着色が進んだ着果量の多い樹で発生の多いことから、発生には果皮の成熟(老化)が影響していると考えられた。
2. 樹冠内部の果実や、湿潤処理をした果実で発生が多かったことから、果実の濡れ時間の長い環境や、果実成熟後の11月の降雨は発生を助長すると考えられた。

対策技術の開発

1. 8月下旬以降の農薬散布時のパラフィン系展着剤の加用、高温予措、果実の個包装によりエクボ症の発生は抑制された。減量歩合を低く保つほど発生は少ない傾向であり、個包装で軽減効果が最も大きかった。
2. パラフィン系展着剤と高温予措または個包装を組み合わせることで、それぞれの単独処理よりも軽減効果が大きかった。

キーワード：ユズ、エクボ症、炭疽病、高温予措、個包装、パラフィン系展着剤

緒言

ユズ(*Citrus junos* Sieb. ex Tanaka)は高知県における中山間地域の基幹品目であり、2021年の栽培面積は876ha、生産量は11,769tと、高知県が全国一の産地である²⁾。高知県内のユズは周年出荷されており、12月上中旬に出荷される冬至用のユズ(「ユズ5kg」規格)は青果出荷量の約70%を占め、10月下旬から11月に収穫後、5℃前後で貯蔵されている。しかし近年では、この青果の貯蔵中に果皮が陥没、褐変するエクボ症と呼ばれる障害が発生し問題となっている(図1)。本症状は主として貯蔵中に発生し、障害果は廃棄処分されている。また、出荷後に発生

する場合もあり、市場評価を下げる要因の一つにもなっている。これまでに沖らは、エクボ症の主因がカンキツ炭疽病の原因菌である *Colletotrichum* 属菌によって引き起こされることを明らかにしたり¹⁾が、着果量や採取時期等の素因や気象条件等の誘因は明らかとなっておらず、有効な対策技術は未だ確立されていなかった。そこで、本報告では、エクボ症の発生要因(素因、誘因)を明らかにするとともに、対策技術について検討したので、その結果を報告する。なお、本試験の実施に当たっては、現地生産者の方々、JA高知県、中央東農業振興センター、中央西農業振興センター高知農業改良普及所、農業技術

*現高知県農業振興部農業イノベーション推進課

**現高知県農業技術センター

2022年9月1日受理